

退職にあたって



一般教科自然科学系教授 梅野 善雄

私は、昭和49年4月に一般教科に赴任して、39年間本校の数学教育に携わってきました。今日まで大過なく過ごすことができたのは、周りの皆様の援助があったればこそと思ひ厚く御礼申し上げます。ここに、定年退職にあたり、これまでの事を思い出すまま書き記してみたいと思います。

長年学生をみていると、いろいろな学生と出会いました。ほとんどノートも取らないでじっと授業を聞いているだけで平均以上の成績だった学生、授業中はほとんど寝ているのに試験2週間くらい前から独学で勉強して優秀な結果を残す学生等々、まじめに授業を聞いているのに結果を残せない学生達が可哀想になるくらいです。高専生が進学校並みの勉強をすればどれだけ凄い学校になるのだろうと思うこともありますが、自分の将来にある程度の方向性を持った学生達が、潜在能力に余力を残したまま工業技術の学習環境の中で5年間伸び伸びとした生活をするのが、有為な「高専生」を育てているのだろうと思います。中学・高校の学習指導要領の変遷にあまり左右されない高専教育は、今後益々その真価を發揮して行くのではないかと思います。

これまでのことを振り返ると、グラフ電卓との出会いがあげられます。私は、もともと、パソコンやプログラミングに強い関心を持っていました。数式処理可能な電卓があることを知って数学教育や工学教育での可能性について強く印象づけられ、同じ思いを持つ他高専の先生方や高校の先生方と普及活動に取り組みました。この問題を広く知ってもらうため、平成12年には読売新聞「論点」と「工学教育」に投稿しました。読売新聞に掲載後は文部省から改善効果について報告を求められ、工学教育の論説には日本工学教育協会賞が授与されました。それなりのアピール効果はあったように思われます。また、このグラフ電卓を活用

した数学教育や工学教育に関する研究テーマで科研費の交付も何度か受けました。物質化学工学科の先生方との共同研究では学生実験でも活用いただきました。専門学科の先生方に、その効果を実感いただけたのが何よりもうれしく感じるどころです。

校務では、学生相談室長や学生主事などを経験しました。学生相談室長の時は、啓蒙活動と同時にHPの充実に力を入れました。在任中に登録したメンタルヘルスに関する幾つかの講演は、現在でも全国から多数のアクセスを受けています。講演内容が優れていることが大きいですが、近年、これらのテーマへの関心が高まっていることもアクセス数が増えている大きな要因と思われます。相談室長とは正反対の学生主事も2年間務めました。私の性格とは真逆の仕事でしたが、周りの皆様の支えもあって何とか務めあげることができました。

こうして振り返ってみると、充実した年月でした。いろいろと支えて下さった皆様に、ここに改めて感謝申し上げます。最後になりますが、本校の益々の発展を祈念します。



第13回 T3世界大会(コロンバス)にて (2001年3月)
中央はグラフ電卓の推進者デマナ教授とウエイツ教授
左端は京都大学名誉教授一松信先生